

黒潮ロード

建交労高知農林支部

発行日 2008年6月15日 NO.43

発行所 高知市神田403-8

TEL088-833-2586・FAX088-833-5114

川村さん肺がんで 労災認定に

アスベスト認定第一号



労災認定になて喜ぶ夫婦

川村盛久さん（高知分会）は、鋳物の研磨作業や家屋解体作業に七年一〇ヶ月近く働き、アスベスト被害を受けました。労災認定になるまで時間がかかりましたが、ようやく三月二六日「石綿肺による肺ガン」と認められました。組合としてアスベスト認定第一号です。

診断書は書けない

高知農林支部が、去る〇五年一〇月二二日「第一回アスベスト一〇番」を実施した時、川村さんから、「アスベストを使っている所で仕事をした」と相談を受け、検診を勧めました。

川村さんが〇六年五月肺ガんで医大に入院した時、組合は主治医に会い川村さんの職歴を話し、アスベスト検査の依頼しました。その後、診断書をお願いすると、「書けない」との返事でした。

組合は、当初「アスベストの疑いがある」と主治医が言っていた事や職歴や症状から考へてもあきらめきれませんでした。

これはすごい この人はまだ健在かね

そこで組合は、アスベスト問題の第一人者であり、建交労の協力医でもある海老原勇医学博士に鑑定を依頼するたため、〇七年三月に東京の「しほの診療所」を訪ねました。先生は、開口一番「これはすごい。この人はまだ健在かね」といい、「私が意見書を書きましよう」と引き受けてくれました。

誰が見てもわかる意見書

そして七月、海老原先生の意見書が届きました。意見書は、まるで教師が生徒に教えるかのように肺の絵を描いて解説してあり、誰が読んでもわかる内容でした。早速、高知監督署に労災申請をしました。



申請内容に絞って作業を

ところが九月四日、監督署から「じん肺管理区分」を取ってほしいと話がありました。組合は、それに対して「通達では余計な調査は必要ない事になっている。申請内容に絞って作業を進めてほしい」といい、監督署も了解しました。

そしてついに今年三月二六日、労災認定を勝ち取りました。

このように医大や監督署の言う通りにしていたら、申請さえ難しかったかもしれませぬ。組合がアスベスト問題に通じており、労災の通達も熟知していたからこそ成功したと思えます。

組合のおかげで 救済されて良かった

川村さんは、「一生懸命働いてこんな病気にかかるとは知らなかった。組合がここまでやってくれたので本当に助かった。ほんまに、組合のおかげじゃ」と喜びの言葉をのべました。

奥さんの嘉津子さんも「病弱な私をかばい、家事のことから色々細かいことに気がつく人で、本当に優しい主人です。最近息がヒイヒイ言い出したので心配していました。こんな酷い病気にかかるとは思ってもいみませんでした。組合のおかげで救済されることになり、良かったと思えます」と共に喜んでいました。

アスベスト相談会開く

建交労高知農林支部が所属している「働くもののいのちと健康を守る高知の会」は、五月十日高知市・ふくし交流プラザでアスベスト相談会を開きました。

相談者数四人でした。香南市から来られた八八歳の男性は、平成十五年に検診で石綿肺と言われた方です。「石綿を取り扱ったのは、戦前三菱重工で造船工として軍艦の中に機械を据え付ける作業をしていたときだけだ」と思う。現在は通院しているが「労災にならないか」との相談で

した。また高知市の五七歳の男性は「高校を卒業してビルやホテルに大理石の貼り付け作業を四〇年してきた。現場ではアスベストの吹き付けしているところまで作業をした。最近咳が出るようになり、体の調子が悪いので心配だ」と訴えました。このようにアスベストを吸うたので心配、どこに相談したらよいかとか労災手続きはどうしたらよいか分からないという人たちでした。病院を紹介したり、今後どうしたらよいかアドバイスして連絡をとることにしています。海老原先生に読影の依頼も準備しています。